

### 第 3 章「町の中と外から関心を持たれる教育のまちづくり」 <つづき>

<前のページ右下からの続き>

#### ○伝統と先進の文化・芸術にあふれたまちづくり

これまで獅子舞等の郷土芸能の映像保存を進めてまいりましたが、撮影時に雨天だったこと等により、映像が不鮮明なものについて再撮影を行い、貴重な郷土芸能を確実に継承できるよう取り組みを行ってまいります。

また、引き続き古文書の解読、目録の作成を進めるとともに、文化財の補修、改修等について、指定文化財等

整備事業補助金による文化財の補修、改修等を進めるほか、新たに町指定文化財となった丹三郎長屋門へ説明看板を設置し、文化財の保全と活用を図ります。

また、地域や各団体の協力を得て開催しております「文化芸術展」や、町内外の芸術家が参画する「奥多摩アートフェスティバル」への支援を行い、子どもから大人まで、芸術に親しむことのできる機会を提供してまいります。

### 第 4 章「みんなの力がつながる観光・産業づくり」

#### ○住民が元気になる交流観光づくり

町内全域が、秩父多摩甲斐国立公園に含まれている当町には、その豊かな自然を求めて年間、170万人を超える観光客が訪れていると推計されております。昨年は、雲取山の標高2017mと西暦2017年が同数となる雲取イヤーとして、記念講演会やイベントラリーを実施いたしました。記念講演会には町内外からの400名の方々のご来場により、文化会館2階の視聴覚室と1階の多目的ホールが来場者でいっぱいとなり、当町の豊かな自然が、観光資源として大きな魅力をもっていることを再認識いたしました。

このようなことから、引き続き観光によるまちづくりを推進するべく、鳩ノ巣溪谷遊歩道改修工事、もえぎの湯第1源泉ポンプ交換工事を実施し施設等の整備を行うほか、日本一観光用公衆トイレがきれいなまちを目指し、観光トイレの新設・改修事業に加え、平成29年度から実施しておりますクリーンキーパーによる観光用公衆トイレの清掃を引き続き実施し、観光客数の増加に努めてまいります。

#### ○奥多摩ならではの地域産業の推進

奥多摩町の面積の94%を占める森林は、そのうち約50%が杉や檜の人工林となっておりますが、国産材の木材価格の停滞等による産業構造の変化等から、森林所有者の意欲の減退や林業の担い手の不足により、手入れが行き届かない山林も多いため、多摩の森林再生事業や水の浸透を高める枝打ち事業による森林整備を引き続き進めるとともに、伐採された木材については、木質バイオマス推進事業により、木質資源の有効活用を図ってまいります。

次に、認定店制度により、販売を行っております治助イモについては、18件の飲食店や宿泊施設において、販売、料理に提供しております。イノシシによる被害も見られておりますが、生産量の拡大に努めるとともに、集配・販売業務を委託化し、スムーズな流通ができる体制を整えてまいります。

また、生産者の高齢化が進むわさび栽培では、引き続き、わさび田の利用促進のため、わさび田調査やモノレール設置を進めるほか、町内でわさび苗の栽培ができるよう支援を行ってまいります。

次に、内水面漁業環境活用施設整備事業として、大丹波国際釣場管理棟の整備、氷川国際釣場バーベキューハウスの増設、日原溪流釣場取水施設及び取付道路の整備、平石養魚池の改修等を実施し、各釣場の特色を活かし、外国人観光客や障害者、小さな子供連れでも楽しむことのできる釣場の整備を進めてまいります。

#### ○観光・産業づくりを推進する力の強化

奥多摩観光協会やおくたま地域振興財団等の関係団体と連携しての各種イベントや事業の実施に加え、他団体の実施するイベントへの出展により、魅力あふれる奥多摩町の観光や特産物等の情報をイベントや事業の参加者へ直接提供するほか、現在の観光パンフレットは作成から7年が経過するため、新しい観光パンフレットを作成し、新たな奥多摩町の魅力を発信してまいります。

また、総合観光アプリを開発し、イベントや登山道、桜の開花や紅葉などの情報を関係団体等との連携により、有効的に発信することで、外国人旅行者を含めた観光客の誘致につなげてまいります。多くの方々に利用されるよう老朽化した施設の改修や駐車場の整備を行ってまいります。

<施政方針は8ページに続く>